

徐福12史談 現代語訳 概要

2014. 7. 10 現在

現代語訳「神皇紀」p275に記されている「徐福十二史談」のリスト

- ①神代実記
- ②神都実録
- ③天之御中世、国常立尊・国狭槌尊、日向高地火峰不二山中央高間原天降山来
- ④伊邪那岐・伊邪那美尊一代記
- ⑤大日留目尊一代記
- ⑥仁々記尊一代記
- ⑦筑紫南島合戦記
- ⑧火火出見命、皇太子仁御位尾譲利、都古筑紫移住記
- ⑨筑紫再合戦記
- ⑩神武天皇不二紀
- ⑪不二再現記
- ⑫諸家系図史
- ⑬その他

12番	内訳	ページ	頁数	表題	概要	著者	頁	担当
	内訳							
①	神代実記	19-20	2	宝来山日向高地峯高間原神代実記	支那国王神農氏が東方に宝来山を見つけ、眷族を引き連れ日本の西国に来たときのことを記載。不二山を指し、駿河に上陸。			A
①	神代記	56-58	3	支那国曆記/支那国歴代記断簡	支那国曆記:夏の禹王の代に曆が作られた。伏羲氏が中原に天降りその子神農氏が5男、7男と東海蓬莱山へ。周王子孫朝天の子孫2男がスサノオ尊	不二高間原古老談徐福謹署		J
①	神代記	65-66	2	神代申伝録				
①	神代記	67-68	2	神代申伝録				
①	神代記	69-70	2	宮守福地佐太夫由来并不二山高地火国由来				
①	神代記	144-145		支那震旦国国法略記並びに国王世代略記	大昊伏木は大陸に天降ると子孫を四方の国に住ませ、王族となった。親孝行の国王が周を治めた。孝王という。	孝元天皇5年、秦徐福記置、安元2年宮下源太夫義仁謹写	2	E
①	開闢神代記	145-147	3	天地開闢神代略歴	天地開闢の源、須弥山不二蓬莱山に神都を定めた。天之御中主世という。高天原、豊阿始原瑞穂国という	秦徐福記置		J
① ⑫	開闢記	176-192		開闢神代歴代并蘇我武部栄日子三家世代記	開闢神代並びに歴代蘇我・武部・栄日子世代記 豊葦原瑞穂国の世5代		17	F

①	神代記	348-357	10	国常立命来歴	天都州海原の四季島の蓬莱山に神農氏の御子2柱が来所。国常立尊と国佐都知尊と称し、国政を司る。イザナギ尊、大日留女尊、ウガヤ神皇の事績を記載。豊受大神の子孫・宮司世襲の系譜記載。	建久年、大宮司宮下源太夫神代記より写す	14	H
① ⑤	天照大神、神代記	412-417	6	神代類 鷲聚抄、豊阿始原天照御世略記	豊斟ヌ尊、泥土煮尊、大戸道尊、面足尊に4州を司らせる。大戸道尊の長男の大己貴尊に租税職務を、二男の作田彦に農事を司らせた。月夜見の長男大山津見の子孫に山守を司どらせる。		15	I
①	神代記	364-365	2	祖佐男命来歴世代	祖佐之男命は天竺東州震旦国支那小州の朝鮮国王新羅記王の4男太加王である。日本国の大日留女尊を妻とし、豊葦原瑞穂国を自分の領土と計る。大日留女尊の岩戸隠れで瑞穂国が暗闇となり太加王は捉えられ、回心したことで姉弟の契約を結ぶ。			I
①	神代記	118-124	7	支那震旦國皇代曆記/徐福子系曆	蓬莱山の高天原から伏羲氏が大陸中原に天下る。炎帝神農を生み、神農は7男9女を生む。5男と7男が東海へ出る。長男有熊氏は中原の大皇帝となり、2男は東州の国王朝天子(スサノオの祖)に、3男は南州国王で夏陽氏、その子孫が夏国の禹王になる。			K
①	神代記	124-129	6	除除子系曆	除子は福子とも言う。炎帝神農氏の一男有熊、その4男忠願の子孫。田学は孔子の門人。範睢(始皇帝は秦敬と範睢の娘の子・強秦→白起)の長男除除子、字は徐福といい、孔子の門に入り、インドに渡り、薬師如来を持ち帰る。秦始皇帝の命により、大祖先の住んだ蓬莱島に不老不死の薬があると言って大船85隻5百人の男女を従えて海を渡る。	孝霊天皇76年秦国人除之徐福謹書。寒川神社宝物蔵より借受写置、安元2年宮下源太夫義仁謹記。		K
①	神代記	263後半	6	支那国歴記	支那国歴記: 神代の12史が始まった。神代ことばの紹介。			V
①	神代記	263後半-265後半	3	徐福来記	富世明波羅御住火国3000年、孝霊天皇73年に徐福が不二山麓に船を着かせた。(500人余り)名簿と12史談作成のこと記載	不二高間原古老談徐福謹署	6	V
①	神代記	191-199		ウカヤフキアエズ第1~24代				L
①	神代記	199-234	41	ウカヤフキアエズ第25~49代				M

①	神代記	207	1	宇家潤不二合世50代、51代	霧島山を宇津峰、高座山という。不二高天原阿曾谷から移した。		8	M,N
①	神代記	207中～213	6	宇家潤不二合世～51代	全国に初世太頭と国主令を置く。マガツ空張命が大將で国乱が発生。皇太子五瀬王、4皇子佐野王が賊軍退治に立ちあがる。		7	N
①	神代記	214～220中	7	天御中主太神より神皇代代	天之世から始まった神代の諸々。様々な生活必需品の発明。衣食住の始まり。酒、地名のこと。神農、国常立、国狭槌神など。鶴亀、儀式。		7	P
②	神都実録	35-36	2	宝来山日向高地峯高間原神都実録	不二山は宝来山、高砂山といい、真郡州の5男と7男が天下り留まった。神代を経て、孝霊天皇のとき徐福が来所。神々の墓所明示。神霊を日本各地に移す。	応神37年大山守王書記		
② ⑥	神都実録	37	1	月夜見命後胤阿田津毘女最後事	月夜見命の子孫・大山住見命、その娘アタツヒメがニニギ命の室となり、西島で合流。不二裾野の噴火口で焼死す。	秦徐福記書を大山守皇子留書き写し		
③ ④	神代史	21-31	11	阿祖山神社祝詞大教	イザナギ尊、オオナムチ命、～オオササギ(仁徳朝)までを記載。		13	A
③	神代史	32-34	3	阿祖山神社大祝詞小教	不二山峰の岩戸閉め後世界が変動、山と海が入れ替わりついに太陽が出て岩戸開きし、高天原に高皇霊と神皇霊女神が天下る。	応神37年大山守王書記		
③	神代史	38-39	2	寒川日記第三巻の四	不二山は世界第一の名山で日向の高地峯である。ここに国常立尊と国狭槌尊がとどまる。墓は丹波国と高天原白蓮滝に。他神々の墓所記載。			
③	神代史	40-41	2	福地山開闢由来(断簡)	阿曾山神社は開闢第一の社。シナの王神農の5子と7子が来所。原の山の小谷の池傍に座す。その由来を記す。	記太夫記す。		
③	神代史	42	1	阿曾谷神社由来	国狭槌尊は不二相模国寒川の高座山白蓮滝下に。	記太夫記す。		
③	神代史国常立	348-358					10	
① ⑤	天照大神、神代記	412-417	6	神代類 鷲聚抄、豊阿始原天照御世略記	豊斟ヌ尊、泥土煮尊、大戸道尊、面足尊に4州を司らせる。大戸道尊の長男の大己貴尊に租税職務を、二男の作田彦に農事を司らせた。月夜見の長男大山津見の子孫に山守を司どらせる。		15	I

⑦ ⑧	筑紫記	72	1	筑紫遷都事/大日本不二興国由来	ヒコホホデミ尊即位88年に筑紫島に外国より大軍攻め来るので、不二高高原から筑紫日向山に神都を移した。ウガヤ朝となる。	秦国流人徐福記す、仁安3年山宮宮司写		
⑧ ⑦ ⑩	ヒコホデミ筑紫移住、神武記	235-248		海守神之事、ヒコホホデミ、神武天皇	日子火火出見命は西津木見島(筑市島)に大陸から軍勢が攻めて来たので防衛のため、皇子のウガヤ不二合須尊に位を譲り、不二高地火宮から日向の高千穂宮(名付ける)に移る。総大将は阿蘇武男命。神武天皇の活躍記す。	建久3年、寒川神社古文書より宮下源太夫義仁書写	14	G
⑧	天降記(ウガヤ朝)	71	1	宇家潤不二合須世神皇51代歴代記				
⑨ ④	筑紫再合戦記	82-99		神皇御系族并筑紫嶋二度合戦記	天農立彦の神代系暦。イザナギ、イザナミ神の詳述。			
⑩	不二記	249-252	4	不二山元宮神都復旧事并勅定写	神武天皇即位4年、天皇は火地山に来て天照太神並びに神々に諡を捧げ、大山祇の遠孫を宮守にした。孝霊天皇の時、火地山を不二山と改名。同年徐福来所。孝元天皇の子・武内宿禰の子に徐福学を学ばせ、羽田八代宿禰と名乗る。 崇神天皇6年不二山を福地山に改名。			H
⑩	神武記	130-144		神代軍師軍神武家略歴/惣国神社御改事	天之御中主の男子3人。高皇産補男神、高中守主神、高下守主神。2, 3男が神皇守護首頭の家と定めた。塩土老翁は20代の武勇命である。その子が稚武王、建御方、経津王、武嘉ミカ槌である。神武天皇は、勅命により各職務を定めた。神社についても取り決めの法を作成した。	神武天皇5年勅命調査による。	14	E
⑩	不二再現記	308-311	4	不二山高天原変革史/不二山高千峯変革史、富士山変化八流記	不二山高千火峯中央の高天原の地形変化を記す。国常立の指令で仙山原を切り崩し、谷川となり相模の海に流す。			I
⑩	不二山高千火由来記	73-116	44	富士山高千穂由来徐福伝、徐福東来記				
⑩		73-75中?	5	不二山高千火由来徐福伝(木花咲彌姫…)			3	S
⑩		75中?-94中	20	長子…				
⑩		94中-97	4	(大原山西方寺は今の西念寺なり)			4	
⑩		98-104中	7	神代事			7	T
⑩		104中-107中	4	御遺言				

⑫	諸家系図	43	1	太田羽田両氏世代	応神天皇の皇子根鳥皇子と羽田矢代宿禰が高天原に。根鳥皇子(真土大塚山に眠る)の諡が大田守皇子。妻の家系が羽田氏。	記太夫記す。		
⑫	諸家系図	54-55	2	阿曾山神社由来	崇神5年、国狭槌尊霊を小室北で守る。宮守神社。不二	阿曾谷神社宮司	14	B
⑫	諸家系図	150-157	8	栄日子大国主両神祭祀因縁事			16	C
⑫	諸家系図	150-151		栄日子大国主両神祭祀因縁事				
⑫	諸家系図	152-154						
⑫	諸家系図	155-157						
⑫ ①	諸家系図	176-192		<b>開闢神代歴代并蘇我武部栄日子三家世代記①と重複</b>	開闢神代並びに歴代蘇我・武部・栄日子世代記 天之忍補耳尊の系図、ニニギ尊。霧島山への神都移転		17	F
⑫ ⑧	諸系図	260-262	3	<b>大山祇阿東祖両命歴代徐福東来記并神代拾遺</b>	火火出見尊が皇太子、トヨタマヒメの子、ウガヤフキアエズの系図。大山祇命歴代系図。	秦徐福7代福寿書紀	11	J
⑫	諸家系図	265後半-268	4	阿東祖命暦代	スサノオ尊の子孫の系図、尾張田彦、源太夫、記太夫(宮下文書筆記者)が属す。オウス、大山守皇子の記載あり。	秦福寿(妻は加古坂王の娘)記す。写し建久3年		V
⑫ ①	諸家系図	220中～225中	6	天高皇産霊神の系図(そもそも三千世界・・・六十代)	三千世界開闢の始めに4種の神種(人種)が現われた。東州、南州、西州、北州。 天の世の左大臣、右大臣の名前、中臣鎌足まで。			Q
⑫	諸家系図	225中～227	3	(日高佐野尊本州中央・・・二十一代)	天の世の左大臣、右大臣の名前、中臣鎌足まで。		8	Q
⑫	諸家系図	227中～230中	4	栄日子尊世代記 (・・・五十六代)				R
⑫	諸家系図	230中～231	2	(宇家間不二合世第51代御代彌真都・・・)				R
⑫	諸家系図	232～233	2	紙背 神代主膳事/海守神事/神武天皇・・・			7	R
⑫	徐福子孫系譜	124中-129	6	<b>徐福子系譜</b>			12	K
⑫	諸家系図	107中-111中	5	<b>大山津見命御暦代</b>				
⑫	諸家系図	111中-116	7	<b>阿東祖命暦代</b>			10	U
⑫	諸家系図	124-129						
⑫	諸家系図	297後半-299	3	徐福後胤系譜				

⑬	その他			富士山大噴火都留駿河富士三郡変化記/甲斐国三郡変更記	延暦、貞観の不二山2度の大噴火の記録。大国主のこと。ウガヤ朝のこと。山梨の古代史記述。	甲斐国三郡系暦変構記		D
⑬	その他			大日本国惣那変化記抄/大噴火前後略記	山梨の古代史記述。		18	D
⑬	その他	397-399	3	相模国寒川神社・・/不二山近辺大小小字名叢録	桓武天皇、延暦19年福地山より溶岩噴出。不二山近辺の地名 相模国寒川神社の日記録。			I
⑬	その他	106-107	2	(図面等)	都賀郡、陸奥、出羽、甲斐の地名 出羽地震大海に。不二山噴火(長元7,1034)	菅原朝臣文時記す、天曆6年(962)		J
⑬	その他	<b>292-299</b>	8	30福地山神官伊勢参詣記並秦徐福後胤系譜			8	W

太字は徐福十二史談、並びに徐福が録取したといわれるもの